



女性グループが手を組んで長崎にも

「女性議員をふやそう・ながさき」

発会式
6月5日(土)



会の代表には「B P Wながさき」の黒崎伸子さんを選出し、事務局を複数人で構成し事務局連絡先としてばってん-うーまんの会の池田玲子が当ります。発会式では黒崎代表が次のように会の設立主旨を述べました。

「男女共同参画社会の実現には、「女性の人材が育つこと、人材が羽ばたける社会環境を作ること」が大切。それには女性の政治参画を目指す具体的な活動の場を生み出すことが必要です。今、この長崎で誕生させたいのは、政党の意見や方針に左右されることなく、女性の代表として政治の場で活動する人です。私達は、無党派の女性県議を次期県議選で当選させることを当面の目的として様々な事業を行っていきたい。」

そのあと、北京JAC山口の事務局の小柴久子さんによる講演会を致しました。小柴さんは山口県で1995年で市議を、今回の統一地方選で県議をトップ当選させた一市民のかたです。いわゆるプロの選対長ではなく素人の女性でした。その話の興味深かったこと！

男性5人、女性1人計6人区の現議席の中に、新女性候補をぶつけたわけです。地区の主企業の票や団体票を握っている無風地帯の候補者たちはどんなにあわてたことでしょう。そのような状態のなか、小柴さんは既成の選挙戦術を取らず、いわゆる「いちご型」を思いつきました。この話になると会場みなさんは身を乗り出して、時には笑い声も聞こえたりして聞き入りました。「女性」の候補者を「素人のわたしたち」が本当に当選させることができるのかというかすかな不安を、「既成概念にとらわれない女性のもつ、新しく柔軟な発想」で勝利することができるのだという確信に変えた素晴らしい講演でした。この想いは、男性の発想中心で硬直した今の社会を女性が参入することで柔軟に変えることができるという自信につながり、参加の皆さんに大きな力を与えたのではないかと思います。講演会のあと意見交換に移りました。その中で次のような質問もでした

1. 少ない女性議員数では、1人で反対しても何にもならないのではないか。
2. 無党派として当選しても、どんな活動ができるのか。その後のチェックはどうか。

これに対しては、来場していた女性議員が

1. 人で反対して、たとえ数の力はなくとも、反対理由についてみんなが考えるキッカケになる。(男性一辺倒の発想が変わる)
2. 議員はみなそれぞれ委員会に所属して活動するが、女性議員が少ない現状では厚生委員会などに所属が片寄ってしまう。もっと増やしてどの委員会にも女性がほしい。女性議員がもっともっと必要です。

と、私達ではわからない議会の現状を話し、エールをおくってくれました。

この日の参加者は約50名。会の終了後、入会申込みかなりあり、女性議員が渴望されている現状をひしひしと感じました。

次回例会 7月14日(水)
事業案について話し合う予定です。


入会手続きについてのご質問はTEL. へ どうぞ!

できましたネ!

男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とした「男女共同参画社会基本法」が、6月15日に可決成立、同23日より施行されることになりました。

私達も昨年の夏は論点整理で法案の内容や解釈の仕方を学習して、よりよい基本法を求めるために意見をFAXで送りました。今年の2月には法案の早期成立を求める集会で燃えました。この法律ができたなら何がかわるのか私たちは知りたいわけです。そこでこの法案作りにかかわった東大教授、大沢真理さんに取材した毎日新聞6月18日附の記事と実際に大沢さんが講演したことをもとにまとめてみました。

- 
- 1、2条(用語の意義)、8条(国の責務)に「積極的改善措置」を明記した効果は大きい。中央官庁と自治体は採用、教育、訓練、管理職への登用などの機会を積極的に提供しなければならない。

●人事院が夏の勧告で何らかの指針を出すかも知れない。その際、目的達成の目安として数値目標が入るかどうかがかギになる。

- 2、3条(男女の人権の尊重)の「男女が性別による差別的取扱いを受けないこと」は間接差別禁止に使える。ここでの「性別」はジェンダーを差し、議員質問も念をおしている。パート差別を受けているのは女性が多いことを理由に、「隠れた性差別」としてパート差別の違法性を訴えることができる。

- 3、4条(社会における制度または慣行についての配慮)の「中立的配慮」は選択的夫婦別姓や年金・税金制度の見直しを求める根拠になる。

- 4、14条(都道府県男女共同参画計画等)では自治体の計画は国の計画が最低基準になるので、たとえば、審議会などにおける女性委員登用の当面の目標値は20%を下回ってはならない。

- 5、15条(施策の策定等に当たっての配慮)はあらゆる政策へジェンダーチェックができるということになる。

6、17条（苦情の処理等）では総理府男女共同参画室そのものには苦情処理の権限はない。
そこで、「なぜないのか」「新たな苦情処理機関を設置するための法律が必要」という声を参画室に上げていくことが国を動かすことになる。



初登壇！西村県議は質問の中に「男女混合名簿について」を入れました

12年ぶりに誕生した女性県議の西村さんの初質問日が7月2日に決まった知らせを受けたので、ばってん・うーまんの会は「男女混合名簿」についての県教委の姿勢を聞いてもらうことにした。これは、1992年にばってん・うーまんの会が県教委に申し入れをした「県教育必携の一部見直しと変更」の中で、男女別名簿はトイレ、更衣室の男女別と同じく必要不可欠であると答えた県教委の姿勢が今も変わっていないのではないかという懸念があったからです。「男女共同参画社会基本法」の国会審議も始まっている今日、女性行政を司る県生活環境部と県教育長の答弁が見ものです。

北京JAC第4回全国シンポジウム
「国連女性2000年会議に向けて」
7月10・11日 静岡市

分科会で北京JAC九州山口沖縄は「女性の地位向上のための制度的なしくみ」を担当します。

報告者 池田玲子 （ばってん・うーまんの会）

